A decorative graphic on the left side of the page consists of a series of vertical lines of varying heights and colors. The lines are primarily dark blue and green, with some lines being solid and others having a gradient or a break in the middle. The lines are arranged in a way that they appear to be hanging from the top of the page, creating a sense of movement and depth.

IR day2024 セッション3
「サステナビリティ経営戦略」

NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社
2024年9月13日

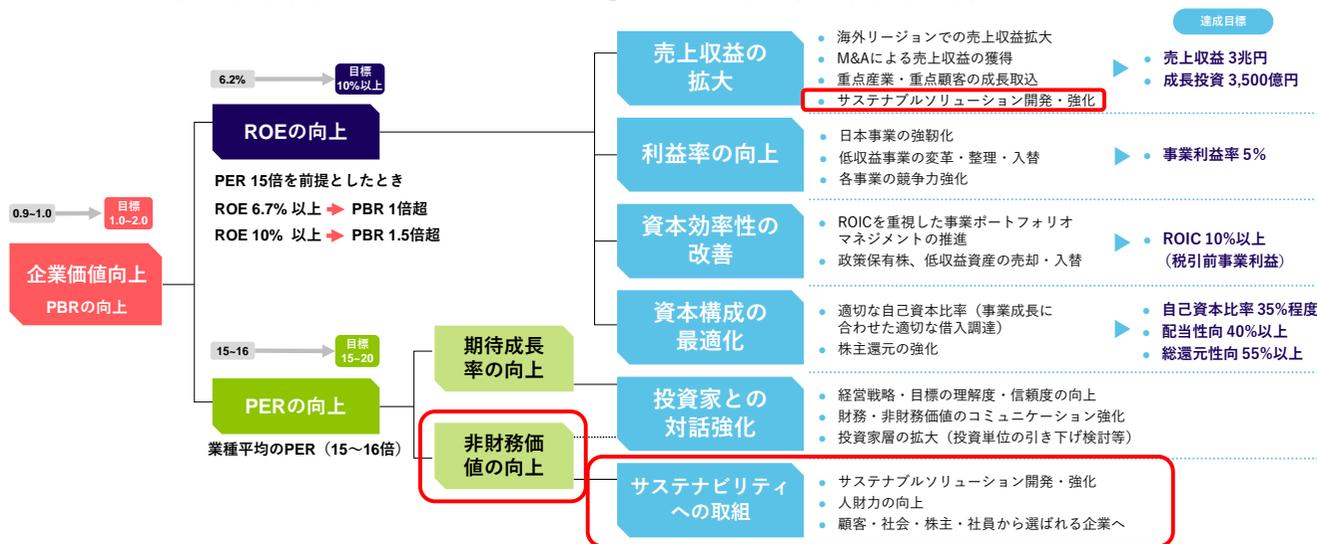
「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」

企業価値向上（PBR向上）に向けた取組み

方針・目標

経営計画の取組みを着実に実行することで、資本コスト（8%程度）を上回る「ROEの向上」と

「継続的・将来的な成長期待によるPERの向上」を実現し、中期的には経営計画で掲げているROE10%以上を達成する



弊社グループは、長期ビジョンの達成、企業価値の向上を図っていくため、今次経営計画からサステナビリティ経営戦略をすべての事業の土台として位置づけ、グループ各社の事業、コーポレート戦略に反映させております。

経営計画では、サステナビリティ経営の推進を計画の重要な骨子と位置づけ、「非財務価値の向上」を図るためのサステナビリティへの取り組みと、「売上収益の拡大」の施策の一つとして、新たに特定した重要課題である「サステナブルソリューションの開発・強化」を企業価値向上の取り組みに位置づけ、計画の推進を図っています。

重要課題 (マテリアリティ)

重要課題（マテリアリティ）は、新規および過去からの継続的な取組みや積み上げてきた無形資産をベースに、現在および未来の企業価値向上に向けて対峙すべきテーマ

- コンプライアンスの徹底
- 安全・安心の確保
- 人権尊重への取組み

- 優秀な人材の確保・育成
- Well-beingの充実
- DE&Iの推進

SCOPE 1～3の削減

- ・ 化石燃料使用に伴うCO2排出量の削減
- ・ 電力使用量の削減、再エネ導入の拡大
- ・ 利用運送に伴うCO2排出量の削減
- ・ 産業廃棄物の排出削減

KPI	2023年度	2026年度	2028年度
CO2排出量の削減 (SCOPE1・2)	排出量 746千t ※22年実績	排出量 641千t	排出量 537千t
CO2排出量の削減 (SCOPE3)		対前同 2.5%削減	対前同 2.5%削減



- マテリアリティ・ソリューションの強化
- 脱炭素ロジスティクス・ソリューションの強化
- DX推進によるロジスティクス・ソリューションの強化

- リスクに対する事業基盤の強化
- ITインフラの整備とセキュリティレベル向上
- DX推進によるロジスティクスの高効率化、高品質化、高収益化

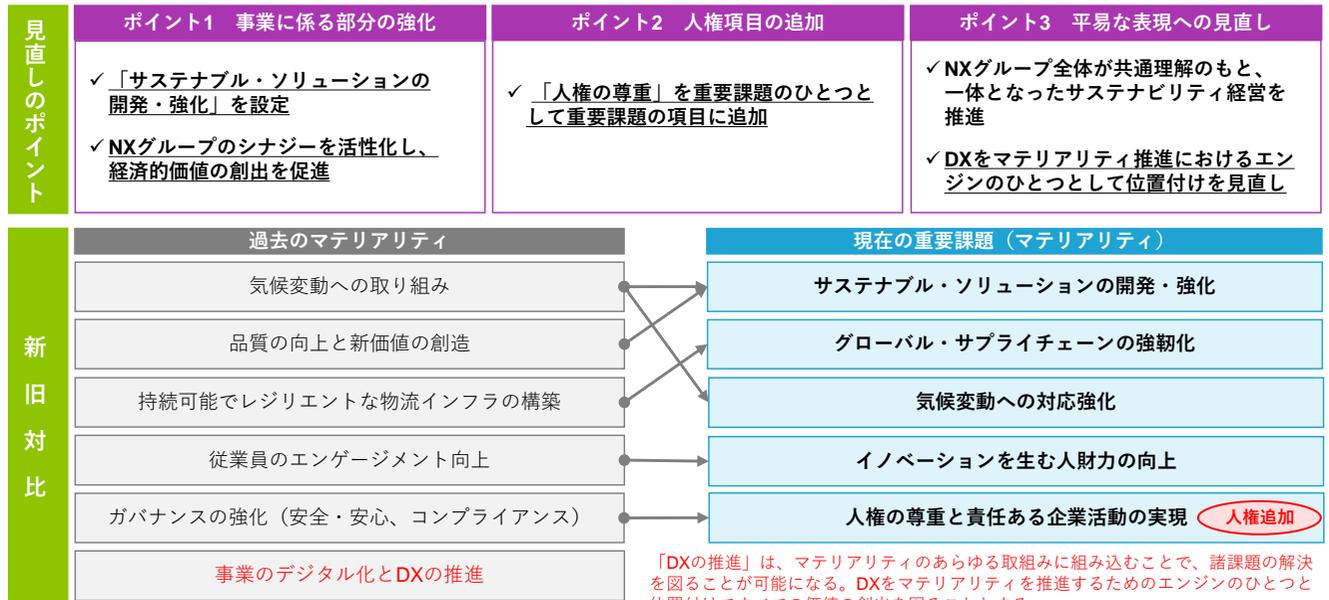
こちらのスライドでは、今次経営計画におけるサステナビリティ経営戦略の具体的な内容をお示ししております。弊社グループは2024年1月に重要課題（マテリアリティ）を見直し、経営計画の戦略骨子としました。

右から、「サステナブル・ソリューションの開発・強化」、「グローバル・サプライチェーンの強靱化」、「気候変動への対応強化」、「イノベーションを生む人財力の向上」、「人権の尊重と責任ある企業活動の実現」の5つです。

これら5つの重要課題をサステナビリティ経営戦略の骨子とした理由は、この5年間でグループの課題に対して各社が事業を通じて解決に取り組むというサステナビリティ経営の推進をしっかりと根付かせ、継続的な進捗を図っていくためです。

重要課題の一つである「気候変動への対応強化」で取り組む、CO2排出量の削減については、社会的な要請も踏まえ、サステナビリティKPIとして公表しております。

重要課題（マテリアリティ）の見直し



先のスライドでご説明した5つの重要課題は、2024年1月から新しくしたものです。1年をかけてグループ、グローバル全体で取り組めるものに再特定をしております。

見直しのポイントは、資料上段の3点となりますが、一番特徴的なのは、「サステナブル・ソリューションの開発・強化」という、ビジネス特化型の重要課題を設定したことです。これはまさにグループ会社である日本通運を始めとした各社が自らの事業や特色を活かして、社会・産業全体の維持と最適化を図るサービスの提供に取り組むことで新たな価値を創造し、NXグループの持続的成長、強みに繋がる「経済的価値」に繋げる狙いがあります。

具体的には脱炭素に繋がるロジスティクスソリューションの強化やDX推進によるロジスティクスソリューションの強化など、グループが喫緊の課題として捉えている脱炭素、人手不足という課題解決にも繋がるものとなっています。

これまでもNXグループが事業を通じて社会課題解決するソリューション提案を行ってきたことを、サステナビリティ経営におけるKPIとして可視化し、具体的な社会的価値と経済的価値を示していきたいと考えています。

重要課題（マテリアリティ）の施策・目標

重要課題(マテリアリティ)・施策	目標設定項目	2028年目標値
サステナブル・ソリューションの開発・強化 <input type="checkbox"/> マテリアリティ・ソリューションの強化 <input type="checkbox"/> 脱炭素ロジスティクス・ソリューションの強化 <input type="checkbox"/> DX推進によるロジスティクス・ソリューションの強化	顧客数/取引量の増加	
	鉄道輸送 総販売トン数	7,595千トン（※日本通運株式会社）
	内航海運 総販売トン数	2,270千トン（※日本通運株式会社）
	Sea & Rail 総販売トン数	13.8千トン（※日本通運株式会社）
	サプライチェーンの課題を解決するビジネスモデル構築	
	事業の創造による利益貢献額累計	87億円
	DX人材専門教育プログラム累計受講者数	400人
グローバル・サプライチェーンの強靱化 <input type="checkbox"/> リスクに対する事業基盤の強化 <input type="checkbox"/> ITインフラの整備とセキュリティレベル向上 <input type="checkbox"/> DX推進によるロジスティクスの高効率化、高品質化、高収益化	重大リスクの低減	
	重大セキュリティインシデントの撲滅	発生なし
	事業の改革による生産性向上効果額累計	730億円
	自動化技術導入による作業時間の削減(2023年比)	218万時間削減
	DX人材専門教育プログラム累計受講者数	400人
気候変動への対応強化 <input type="checkbox"/> Scope1：化石燃料使用に伴うCO2排出量の削減 <input type="checkbox"/> Scope2：電力使用量の削減、再エネ導入の拡大 <input type="checkbox"/> Scope3：利用運送に伴うCO2排出量の削減、産廃の排出削減	Scope1,2合計排出量	537千t-CO2
	Scope3排出量の削減	
イノベーションを生む人財力の向上 <input type="checkbox"/> 優秀な人材の確保・育成 <input type="checkbox"/> Well-beingの充実 <input type="checkbox"/> DE&Iの推進	「総合力※」の向上	
	NXコアエンゲージメントスコア	76pt
人権の尊重と責任ある企業活動の実現 <input type="checkbox"/> コンプライアンスの徹底 <input type="checkbox"/> 安全・安心の確保 <input type="checkbox"/> 人権尊重への取り組み	コンプライアンス違反による法的措置の撲滅	重大事件 発生ゼロ
	従業員のコンプライアンス違反の撲滅（非遵行為事案）	
	差別・ハラスメントの撲滅（内部通報事案）	
	物流に係る社会安全の実現	
	事業活動における人権の尊重	

※ 「総合力」 = 「多様で優秀な人材の充実」 + 「一人ひとりのパフォーマンス向上」 + 「インクルーシブな職場風土の醸成」

4 2024年9月13日開催 IR day

Copyright © 2024 NIPPON EXPRESS HOLDINGS, INC., All rights reserved.

NEX NIPPON EXPRESS
We Find the Way

こちらのスライドは、今までご説明した5つの重要課題（マテリアリティ）に対する具体的な取組施策と目標値を示しています。

一番上のサステナブル・ソリューションの開発・強化、こちらについては、脱炭素に関わる、お客様に関わるCO2の可視化や、例えばフォークリフトの自動遠隔搬送ソリューションをNEC様と共同開発し、作業の効率化や安全性を向上させて、少人数での作業を可能とする人手不足の課題解決等、具体的な施策を増やしています。

もう一つ、ホールディング各部門と協力している中の上から4つ目として、人的資本強化につながるイノベーションを生む人財力の向上につきましても、人財戦略の施策を着実に進めることでNXコアエンゲージメントスコアのスコアアップを5ポイント向上させるという具体的な目標も作られています。

現在目標値の設定されていない項目については、取り組みの強化を図ることで定量的なKPI設定を進めていく予定としています。

気候変動への対応強化



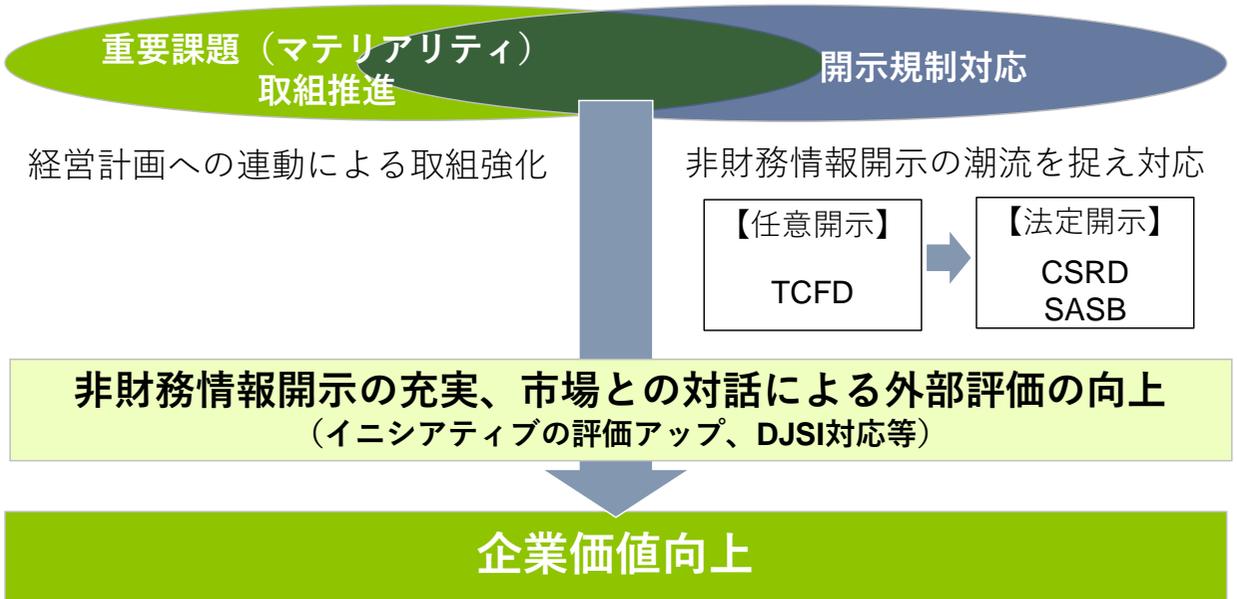
こちらのスライドでは重要課題の一つとしている、気候変動への対応強化についてお話をさせていただきます。NXグループではCO2排出削減の取り組みを、グループの持続的成長と企業価値向上につなげる上で必要な経営上の重要課題と捉え、積極的に取り組んでおります。今般、当社グループの2050年までの脱炭素化への道のりを示す削減ロードマップを策定しました。これは、当社グループが掲げる2030年・2050年CO2排出削減目標の着実な達成に向けた、現時点における具体的な主要施策とマイルストーンを示すものです。

まずは、NXグループは今できること、やるべきことに注力し、削減を図っていきます。自社が直接排出するSCOPE1と言われる、主に燃料から排出されるCO2は、EVやFCVと言われる環境配慮車両は中・大型トラックにおいてはまだ普及の見込みが立っておらず、経済合理性の観点からも導入は困難であり、現時点で大きな削減効果は見込めないのが実態です。即効性のある取り組みとして、電気を利用することで間接的に排出されるSCOPE2と言われる、主に電気から排出されるCO2の削減を優先的に実行していきます。

施策としては施設照明のLED化を中心とした省エネ、初期投資が抑えられるPPAモデルを活用した太陽光発電や環境価値の購入による再エネの活用を進めます。これらを着実にしながら、技術革新、社会インフラの整備を踏まえたSCOPE1の現実的な削減計画を策定します。

いずれにしましてもサステナブルな社会の実現にCO2排出量の削減は避けて通れない課題であり、中・長期の目標を見据え地道に目標達成に向けて取り組んでまいります。

サステナビリティ経営戦略で目指すもの



弊社グループのサステナビリティ経営を強化していくための次なる課題は、事業の成長戦略とサステナビリティ経営戦略の統合を図っていくことだと考えています。

事業戦略を5つの重要課題に紐づけ、事業を通じて課題を解決し、新たな価値を生み出していく「価値創造ストーリー」を明確にすることにより、グループ内における具体的な成果が増え、企業価値の向上に繋がると考えています。

それと同時に、社会的要請の高まっている非財務情報開示の充実を図ることも重要と考えております。投資家の皆様をはじめとするステークホルダーからの開示要請に真摯に対応し、自社の取り組みを統合報告書やサステナビリティデータブック、市場との対話の場でしっかり伝えて参りたいと思います。

グループ内の自律的な取り組み強化の為に、成果は数字で表すことが必要と考えており、今後は世界的に多くの企業が活用しているDJSIのスコアを目標に据えて取り組んでまいります。特にここ1、2年は、法定開示が決定しているCSRDに関連する項目を優先的に取組んでいくこととしております。



本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。
また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、
その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。
万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、
弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おさください。